

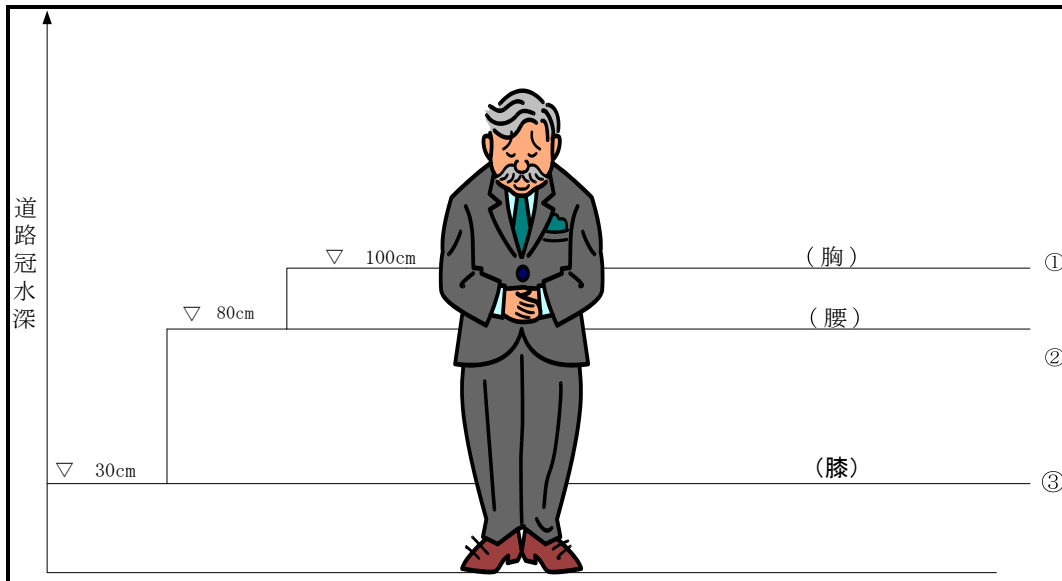
## 5 千葉県津波浸水予測図の浸水深ランク分け

浸水深ランク	詳細ランク	理由	備考
～50cm	～10cm	足首までつかる深さ。流速が速い場合は人的被害が発生する。	
	10cm～50cm	大人の膝までつかる深さ。歩行の自由が奪われる。流速が速い場合は人的被害が発生する。 浸水深 10cm 以上で自動車のブレーキ性能が低下する。 浸水深 30cm 以上では、自動車のエンジンが停止することがあるため車からの退出を図る。	
50cm～80cm		大人の腰までつかる深さ、さらに歩行の自由が奪われる。流速が速い場合は人的被害が発生する。 車が浮き、また、パワーウィンドウ付きの車では車の中に閉じ込められてしまい、車と共に流され非常に危険な状態となる。	1983 年日本海中部地震では津波による 70cm の浸水深で死者が出ている。
80cm～200cm	80cm～120cm	大人の胸までつかる深さ、人的被害発生の可能性はきわめて高い。 床上浸水 70cm 程度。 床上浸水のため、浸水中は座っていることができず立っていなければならない。このため浸水が長期に渡ると人的被害が発生する可能性がある。	
	120cm～200cm	歩行避難中の人は、ほぼ絶望的である。 床上浸水 70cm～150cm 程度。 1 階軒下までつかる深さ。 一階建家屋では人的被害発生の可能性が高い。木造家屋は部分的に破壊される可能性があるため、鉄筋コンクリート建物の 2 階以上への避難が必要となる。	木造家屋部分的破壊
200cm～	200cm～300cm	床上浸水 150cm～250cm 程度。 1 階軒下以上までつかる深さ。 一階建の家屋の場合には、人的被害が発生し、2 階建の家屋の場合にも、浸水期間が長いと人的被害が発生する可能性がある。 木造家屋は全面破壊することがあり、鉄筋コンクリートの建物 3 階以上に避難することが必要。	2m 以上で、沿岸集落に被害が発生。木造家屋は全面破壊、漁船にも被害発生、死者増加 4m 以上では、沿岸集落・漁船被害率 50%
	300cm～370cm	床上浸水 250cm～320cm 程度。 2 階建の家屋の場合にも、人的被害が発生する率が高い。 木造家屋は全面破壊することがあり、鉄筋コンクリートの建物 3 階以上に避難することが必要。	
	370cm～	床上浸水 320cm 以上。 1、2 階建の家屋はもちろん、2 階建のアパート・マンションの 2 階の居住者も人的被害を受ける。 木造家屋は全面破壊することがあり、鉄筋コンクリートの建物 3 階以上に避難することが必要。	

赤：歩行避難時の危険性、青：自動車による避難時の危険性、紫：自宅にとどまる場合の危険性

《歩行避難中の危険性》

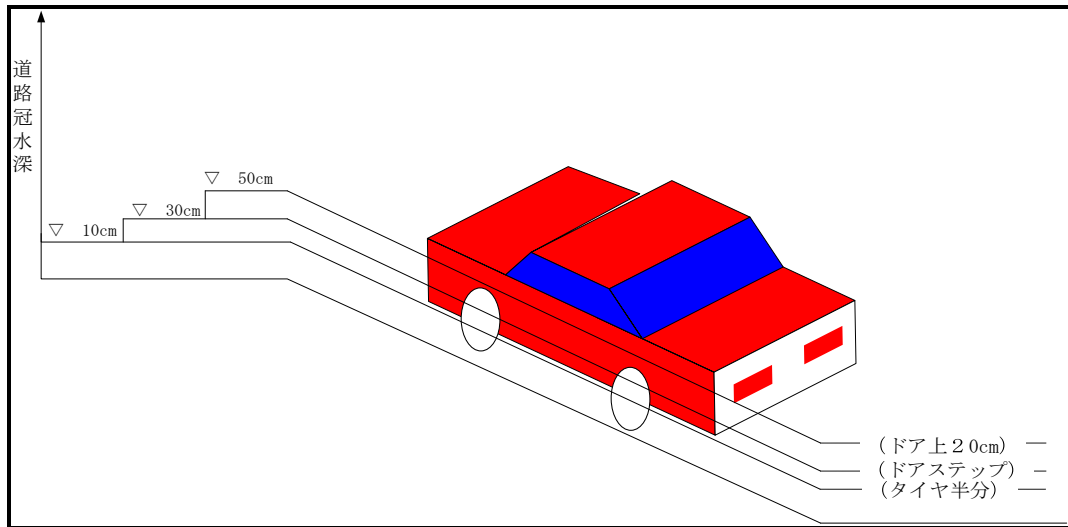
歩行避難中に津波による浸水に遭遇した場合の危険性に関して身体の部位に対応させた浸水深のランク分けを以下に示す。



浸水深区分	浸水区分と道路歩行中の被害の発生状況
浸水深 30cm 未満	・流速がかなり速い場合や歩行者が子供以外であれば、被害の発生はない。
浸水深 30～80cm	・歩くにはかなり困難であるが、大人であれば生命の危険性は少ない。ただし、流速が速い場合や子供や路面に障害物がある場合には人的被害発生の可能性が高い。
浸水深 80～100cm	・流速が遅く、路面の状況が良い場合には歩行が可能ではあるが、人的被害発生の可能性は非常に高い。
浸水深 100cm 以上	・道路歩行中の人、ほぼ絶望である。 (木など高いものに登るしかない)

《自動車避難中の危険性》

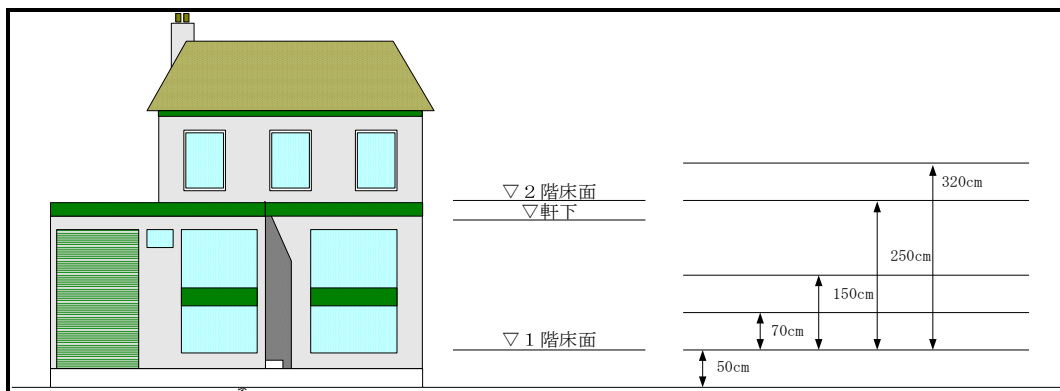
自動車避難中に津波による浸水に遭遇した場合の危険性に関して以下に示す。



浸水深区分	浸水区分と道路歩行中の被害の発生状況
浸水深 10cm 未満	・ 走行に関し、問題はない。
浸水深 10～30cm 以上	・ ブレーキ性能が低下し、安全な場所へ車を移動される必要がある。
浸水深 30～50cm	・ エンジンが停止し、車から退出を図らなければならない。
浸水深 50cm 以上	・ 車が浮き、また、パワーウィンドウ付きの車では車の中に閉じ込められてしまい、車と共に流出され非常に危険な状態となる。

《逃げ遅れて自宅に留まる場合の危険性》

津波が到達する前に避難を完了することが原則であるが、逃げ遅れた場合には、自宅等の2階以上の階層に移動するなど最低限の生命保全行動をとることが必要である。自宅等に留まった場合の危険性を下記に示す。



浸水深区分	人的被害の発生状況	
	浸水による人的被害	建物流出による人的被害
浸水深 50cm 未満 (床下浸水)	・ 浸水により不安感・不快感が生ずるものの、生命の危険はない。	・ 人的被害に及ぶような建物被害は発生しない。
浸水深 50～120cm (床上浸水 70cm 未満)	・ 床上浸水のため、浸水中は座っていることができず立っていなければならない。このため浸水が長期に渡ると人的被害が発生する可能性がある。 ・ また、外の様子を見にいこうとしてもできなくなり、歩行による避難もまず不可能である。	同上
浸水深 120～200cm (床上浸水 70～150cm)	・ 一階建の家屋の場合には、人的被害が発生する。	・ 建物流出の可能性もあり、人的被害の危険性がある。
浸水深 200～300cm (床上浸水 150～250cm)	・ 一階建の家屋の場合には、人的被害が発生し、2階建の家屋の場合にも、浸水期間が長いと人的被害が発生する可能性がある。	・ 建物流出の危険性はかなり高い。
浸水深 300～370cm (床上浸水 250～320cm)	・ 2階建の家屋の場合にも、人的被害が発生する率が高い。	同上
浸水深 370cm 以上 (床上浸水 320cm 以上)	・ 1、2階建の家屋はもちろん、2階建のアパート・マンションの2階の居住者も人的被害を受ける。	同上